

平成 30 年 6 月 21 日

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
平成 29 年度事業報告書

平成 29 年度の事業活動に関し、下記の通り報告いたします。

事業環境

平成 29 年度の世界経済は、政治・経済情勢に関わる不透明リスクが顕在化しなかったこともあり全体としては堅調を維持し、日本経済も緩やかな回復基調が続いた。また、労働需給のひっ迫や働き方改革推進等から、人材育成投資額を拡大する企業も一部に見られるようになった。

こうした状況下、20 回目を迎えた PM シンポジウム 2017 の参加者数は過去最大を記録した。長期にわたって低減傾向が続いた資格認定試験・講習事業であるが、前年度を上回る実績を上げた試験・講座もあり下げ止まりを迎えたといえる。収支面についても小幅ではあるが改善した。

引き続き、P2M 資格認知度向上に向けた広報普及活動等に注力していく所存である。

1. 全般運営

1.1 総会・理事会等の開催

- (1) 通常総会 1 回、定例理事会 4 回、臨時理事会 1 回を開催した。(表 1、表 2 参照)
- (2) 運営会議を 11 回開催した。(表 3 参照)

1.2 組織に関する件

(1) 新役員選任

期初(平成 29 年 4 月 1 日)の役員(理事および監事)の任期が 6 月 30 日で満了となるため、6 月 15 日(木)開催の定時総会において、7 月 1 日から就任する理事 54 名、監事 2 名が選任された。

(2) 役職役員選任

7 月 1 日(土)開催の臨時理事会において、会長には関誠夫理事を、理事長には光藤昭男理事を、また副理事長には佐藤義男理事、芝尾芳昭理事、白井久美子理事、村瀬達哉理事、山根哲博理事、吉田直人理事および若杉賢治理事の 7 名が選任され、全員が就任を承諾した。

1.3 会員の状況（会員数は、3月31日現在：会費納入者数に特別会員数を加えた数）

(1) 個人会員	1,279名	(前年度末	1,313名)
(2) 法人会員	86社	(前年度末	86社)
法人正会員	73社	(前年度末	73社)
法人賛助会員	1社	(前年度末	1社)
法人特別会員	12社	(前年度末	12社)

【会員会費収入】

単位：千円

	平成28年度実績	平成29年度計画	平成29年度実績
個人会員会費収入	7,322	7,350	7,017
法人会員会費収入	9,388	9,450	9,048
会員会費収入	16,710	16,800	16,065

2. 事業

2.1 資格認定事業

PMS 資格および PMS プログラム試験を 3 回（6 月、10 月、2 月）、PMC 資格試験を 6 回（奇数月）CBT(Computer Based Testing)方式により実施した。（表 4 参照）

- ① PMS 資格および PMS プログラム試験は、上期 1 回下期 2 回実施した。受験資格を拡大（PMP 等他資格保有者に受験資格付与）して 2 年目となる PMS プログラム試験の受験者数は大きく増えたものの、PMS 資格試験の受験者数の減少をカバーするまでには至らなかった。
- ② PMC 資格試験は、前年度実績及び計画を上回る応募者数となった。e ラーニングを始めとする研修受講者数が堅調に推移し、研修修了者からの受験者獲得に繋がった。
- ③ PMR 資格試験は、無料の PMR 試験紹介セミナーを開催するなどして受験者獲得に努め、5 名の応募となった。一昨年度の一次試験合格者 1 名が二次試験から参加し、4 名が PMR 資格を取得した。

【応募者数】

単位：名

資格種類	平成28年度実績	平成29年度計画	平成29年度実績	平成29年度合格者実績
PMS 資格	191	190	158	70
PMS 資格 (PMS プログラム試験経由)	86	120	109	71
合計	277	310	267	141
PMC 資格	288	280	297	191
PMR 資格	5	7	5	4

【資格認定収入】

単位：千円

	平成28年度実績	平成29年度計画	平成29年度実績
資格認定収入	18,660	18,980	18,549

2.2 P2M 講習・研修

- ① PMC、PMS、PMS プログラム講習会
平日コースと土曜コースを交互に 3 回ずつ、年 6 回の合同開催とした。これによって、PMS、PMS プログラム講習会は前年に比べ 2 回増加となった。(表 5 参照)
- ② PMS・PMS プログラム講習会については、年 6 回計画したが内 3 回は受講申し込みがなく開催中止となった。
- ③ PMC 講習会については平日コース 29 名、土曜コース 47 名の計 76 名で前年度実績 56 名を上回り回復傾向にある。
- ④ e ラーニングは PMS プログラムの伸びが著しく、前年度実績を上回る高い受講実績を上げており、PMS・PMS プログラム講習会の不調をカバーしている。
- ⑤ PMS・PMS プログラム講習会は、年々受講者が減少し、抜本的な対策が必要な状況となっている。来年度からは受講しやすく日程を 2 日間短縮する。PMS プログラム講習会を目的別に 2 つに分け、試験対策としての「P2M プログラム知識習得講座」と実践研修としての「P2M プログラム実践研修」を新設する準備を下期に完了した。

【受講者数】

単位：名

資格種類	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画	平成 29 年度実績
PMS 講習会	8	12	4
PMS プログラム講習会	33 = 4+(29)	40	91=4+(87)
PMC 講習会	319 = 56+(263)	320	402=76+(326)
P2M 実践力養成研修	5	7	6

(注) PMS-P、PMC の () 内数字は、プロバイダ集合研修+e ラーニングの数字

【P2M 講習・研修収入】

単位：千円

	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画	平成 29 年度実績
P2M 講習研修収入	10,907	13,800	13,502

2.3 PM 一般研修

PMP 試験対応講座、PMBOK 基礎講座等を実施した (表 6 参照)。共催契約先が実施する PM 公開講座が堅調で、前年度上期実績を上回る実績となっている。

【PM 一般研修収入】

単位：千円

	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画	平成 29 年度実績
PM 一般研修収入	3,606	2,900	6,275

2.4 PM 法人研修・大学 PM 講座

(1) 企業講習会

- ① 企業講習会キャンペーン（法人会員向けのオンサイト提供）を仕掛けたが、企業サイドの日程調整・人集めが厳しく、不調に終わった。ただし、2社においては、他の方法での講習受講となった。
 - ・4日間の日程が厳しく eラーニング受講となった。
 - ・一斉受講が難しく、共催契約先の公開講座を分散して受講となった。

- ② 海外リスク研修を新規に実施した。

(2) 各種団体研修

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構（略称 JST）向けプログラムマネジャー育成・活躍推進プログラムサポート（2017年2月、2017年6月）：講師派遣
- ② AOTS（海外産業人材育成協会）：低炭素社会への PM 応用講座（11月、3月（2回）実施
- ③ NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構.）：PM 研修

(3) 大学 PM 講座

以下の大学・大学院で P2M 講義、授業等を行った。

- ① 北陸先端科学技術大学院大学（継続）
- ② 明治大学グローバルマネジメント学科（継続）

【PM 法人研修収入】

単位：千円

	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画	平成 29 年度実績
企業・団体・大学 講習会等収入	11,124	10,466	8,139

3. 会員活動

3.1 PM シンポジウム 2017

9月14～15日に開催した「PM シンポジウム 2017」は、有料参加者数 1,349 名、延べ参加者数 2,704 名となり、盛況裡に終了した。今年度の特記事項は次の通り。

- ① 有料参加者数は過去最多となったが、一昨年、昨年と 2 年続けて 10% 強の参加者増から本年は対前年比 105% と伸びがやや緩やかになってきた。
- ② 2 日目の有料参加者数が初めて、1,000 名を超えた。これは 2 日目にも特別講演を設けたのに加え、昨年導入した 75 分枠・4 セッションを 60 分枠・5 セッションにし、参加者の選択肢が増えたのが一因となった。
- ③ 受付参加票にバーコードを採用した結果、受付処理が円滑となり参加者の受付待ち時間が少なくなり、スムーズな受付対応が出来た。
- ④ 毎年変わるプログラムの運営に対するボランティアスタッフの万全な準備、量的増加、質的レベルアップは評価された。
- ⑤ 例年、講演終了時に配布していた各種証明書を、ダウンロードによる方式（URL をメールで通知）としたことにより、終了時の人の混乱が解消された。

3.2 例会

東京例会 毎月1回開催（第4金曜日、表7参照）

3.3 PMAJ 関西

関西例会は4月、7月、9月、10月、11月、2月、3月の7回開催。

関西 KP 会メンバーの尽力により昨年より参加者が増えた。また11月は特別例会とし、複数講師によるセミナー形式の例会を試みた。（表8参照）

3.4 会員交流セミナー

(1) 新春 PM セミナー2018（東京）

2018年2月2日(金)に、大会テーマ『変革の道を歩む』の下 銀座ブロッサム中央区会館於いて開催し、過去最高626名（前年529名）の有料参加者を得て終了。

(2) 地域 P2M セミナー

① 関西 P2M セミナー2017 は、経済産業省近畿経済産業局、エンジニアリング協会、IT コーディネータ協会の後援、ITC 近畿会/IT コーディネータ京都の協賛を受け、5月12日(金)京都市国際交流会館 イベントホールにおいて「未来の扉を拓くイノベーション」をテーマに開催、有料参加者117名（前年68名）を得て、盛會に終了した。

② 中部 P2M セミナー2017 は、10月8日(土)富士ゼロックスショールームに於いて開催し、有料参加者36名を得て終了した。

③ 高松 P2M セミナー2017 は、10月21日(土) サンポートホール高松に於いて開催し、有料参加者20名を得て終了した。四国初めての P2M セミナー開催。

④ 中四国 P2M セミナー2017 は、11月3日(金・祝)日本ユニシス中国支店会議室に於いて開催し、有料参加者14名を得て終了した。

⑤ 九州 P2M セミナー2017 は、12月9日(土)九州電気ビルに於いて開催し、有料参加者30名を得て終了した。

⑥ 産学連携 PM セミナー2017 は、初めての試みとして大会テーマ『連携型で新ビジネスを創出する』の下 12月16日(土)大阪大学吹田キャンパスに於いて開催し、有料参加者20名を得て終了した。今後は毎年開催したい。

(3) 「新 P2M クラブ」

P2M 資格者による「新 P2M クラブ」を年6回開催を予定し5回実施（5/12、7/14、9/29、11/10、3/9）。

(4) 「朝活セミナー」

平成26年度新たに計画した P2M 資格者を対象とする「P2M クラブ朝食会」を年6回開催を予定し6回実施（4/19、6/21、8/30、10/18、12/13、2/14）。

(5) 「異業種交流会（PMAJ Networking）」

会員、非会員を対象とした「異業種交流会（PMAJ Networking）」を6回開催を予定し6回実施（4/14、6/9、8/4、10/13、12/5、2/9）。

(6) 「PM マイスター制度」

- ① PM 経験豊富なシニアを PM マイスターとして認定し、その保有する経験・スキル・ノウハウを企業の現役の中堅従業員に対して伝授することを狙いとして平成 27 年度より「PM マイスター制度」を創設した。
- ② 平成 29 年度第 9 回運営会議で、長谷川義幸氏および濱久人を PM マイスターに選任し、計 6 名となった。
- ③ PM シンポジウム 2017 にて、私の経験則：「プロジェクトの成功のカギは何か」として講演、会場定員を超える 90 余名の参加であった。
 - 講演者：石倉正幸、向後忠明、葉山博昭、竹下友二の各マイスター各 10 分の講演を実施。

(7) 「PMAJ 七夕納涼会」～七夕放談の夕べ～ (7/7 実施)

3.5 P2M 研究部会 (東京、関西、中部、中四国、九州)

(1) 活動連絡報告会

9/13 各地域研究部会の代表による活動連絡報告会を昨年引き続き PM シンポジウム開催前日にタワーホール船堀 (江戸川区総合区民ホール) において実施した。

(2) 各地域 P2M 研究部会

九州 P2M 研究部会：4/15、6/24、8/26、10/7、11/11、1/20、2/17 の 6 回開催。

中四国 P2M 研究部会：毎月第 1 月曜を基本に 2017 年度は、12 回開催。

関西 P2M 研究部会：定例会を 6/3、10/21、3/17 の 3 回開催。

ワークショップを 6/17、11/11 の 2 回開催。

中部 P2M 研究部会：PM 交流会を 8/26、12/16、2/17 の 3 回開催。

P2M 部会を 4/15、5/20、6/17、7/15、9/16、11/18、1/20 の 7 回開催。

東京 P2M 研究部会：毎月第 4 月曜を基本に 2017 年度は、11 回開催。

3.6 SIG (Specific Interest group) 活動

(1) IT ベンチマーキング SIG

① 「TPS に学ぶ PM」ワーキンググループ(WG)

毎月 1 回 WG を開催 (6 月を除く)。「価値共有の成熟度モデル」「なぜなぜ 5 回 (階) の改善、普及」を活動テーマとした。関西例会第 135 回にて成果を発表し好評を得た。

② 「事例に基づく PM 問題集研究」WG

月次サイクルで WG を開催。PM 問題事例の書籍発行後の発展型として、プロマネ特性評価や、プロマネ傾向分析等に繋げる事が出来ないかの方法論を継続研究。

(2) ビジネス・イノベーション SIG

オープンイノベーション実現に関する研究、P2M のマネジメント・プロセスとの統合。PM シンポジウム、産学連携活動とのジョイントで講演等を行う。

(3) Women's SIG

「働く現場のメンタル対策 ～IT 産業医からみたメンタルヘルス・マネジメント～」
「技術者の働き方改革 ～産業医学と情報処理の立場から～」など、セミナーを中心に活動を行なった。

(4) R&D (研究開発のためのプロジェクトマネジメント) SIG

フェーズⅠを終え、そのWG 成果を出版すべく準備中。並行して「R&D プログマネジメント」の標準ガイドブック発刊を仮目標とするフェーズⅡに入った。

(5) イベントマネジメント SIG

小規模イベントにおけるプログラム・プロジェクトマネジメントの活用の可能性に関する調査報告をSIG 活動の中間報告書として整理。

(6) ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS) SIG – 休止

3.7 広報普及

(1) PMAJ News・ジャーナル

① PMAJ News の配信

PMAJ News を引き続き月 2 回配信(本年度末までに 143 号を発行)。対象は PMAJ 会員、PMAJ 非会員、資格試験合格者、シンポジウムなどの PMAJ 活動参加者等、8,500 名に配信している。

② PMAJ ジャーナル発行 (年 3 回発行、表 9 参照)

(2) 書籍出版

「アジャイル開発の道案内」を出版 (9 月)
著者を講師とする特別講座を 2 回実施 (表 6 参照)。

【会員活動収入】

単位：千円

	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画	平成 29 年度実績
PM シンポジウム収入	33,612	34,000	34,503
その他会員活動収入	6,540	7,674	9,489
会員活動合計収入	40,152	41,674	43,992

4. 研究開発

4.1 教材開発

- ① 書籍「プロジェクトの概念」の改訂（2版）の編集・作成 2018年6月発刊予定
- ② 書籍「プロジェクトの概念」の高専、大学、大学院での教科書の採用へ向けた市場開拓を図るため専用ホームページを作成し、利用者への利便を図るよう計画中。

4.2 改訂3版P2M標準ガイドブックの普及

法人会員企業に対する概要セミナーの実績なし。

4.3 国際交流

(1) 国内外におけるP2M認知度の向上／拡大等

グローバル化推進部にて、国内外におけるP2M認知度の向上／拡大等のための施策を実施。

- ① METI / Facebook NIN2 (NIppon New Network for Innovation) -P2Mへの活用。NIN2.P2Mとして投稿継続 P2M easy and practical Guide として Program Management を理解し易いように短く区切って連載(～No.72)、また、Project Diary (A4版1ページのPM関連コラム)(～No.102)もそれぞれ毎週1回の投稿を継続している。
- ② P2M改訂3版(International Edition)を電子出版(7月、サイバー創研)。

(2) 国内PM人材のグローバル活動に向けた海外PM関係団体との交流継続

- ① PMI®、IPMA®、APFPM (Asia Pacific Federation of Project Management)、GAPPS (Global Alliance for Project Professions)、フランス、ロシア、カザフスタン、他との交流を継続。
- ② 韓国PM協会(Korea Project Management Association :KPMA)交流継続。PMシンポジウム2017に招聘し招待講演を実施するとともに、ソウルでのKPMAシンポジウム(10月18日～20日)に招待され講演を行った。

5. 表彰に関する件(第4回PMAJ表彰と表彰式)

プログラム・プロジェクトマネジメントの分野において優れた講演、活動、貢献をされた個人およびグループ(法人含む)に対する表彰制度を平成26年度に創設し、3年経過したことを機に制度の見直しを実施した。見直し内容は以下のとおり。

- 賞の種類を3種類とし、「優秀貢献賞」「優秀講演賞」は会員を対象、「PMAJ特別賞」は会員以外を対象とすることとした。また、各賞の受賞者を原則1名とする等、選考基準も整理した。
- 表彰対象者の選定を運営会議の所管事項とし、事務局職員等選考の対象外とする者を定めた。

平成29年度表彰は新制度に則って実施した。

平成29年9月14日開催のPMシンポジウム2017の懇親会に先立ち、第4回表彰式を執り行い「優秀貢献賞」2名「優秀講演賞」1名「PMAJ特別賞」1名の計4名を表彰した。

表 1. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2017.6.15	通常総会	681名	平成28年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 平成29年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員選任の件(可決)	可決 可決 可決

表 2. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2017.4.27	定例	49名	平成28年度事業報告(案)と決算見直しについて 平成29年度事業計画(素案)と予算(案)について 「PMAJ中期ビジョン」見直しの件 資格認定委員会・PMS資格認定部会運営の変更について PMAJ2017年度組織および責任者について	承認 承認 承認 可決 承認
2	2017.6.8	定例	49名	平成28年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 平成29年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員候補者選任の件	可決 可決 可決
臨時	2017.7.1	臨時	52名	役職役員を選定について	可決
3	2017.10.26	定例	44名	平成29年度上期事業報告 PMシンポジウム2017完了報告	承認 承認
4	2018.1.25	定例	41名	平成29年度事業別収支(第3四半期実績および通 期見通)について PMAJ「新春PMセミナー2018」開催について PMシンポジウム2018開催について P2M講習会の変更について	承認 承認 承認 承認

表 3. 運営会議

回	開催日		回	開催日		回	開催日	
1	2017.4.25		5	2017.8.29		9	2017.12.19	
2	2017.5.23		6	2017.9.26		10	2018.1.23	
3	2017.6.20		7	2017.10.24		11	2018.2.20	
4	2017.7.25	中止	8	2017.11.21		12	2018.3.27	

表 4. P2M 資格試験 (CBT 試験) 実施状況

(名)

	PMS			PMS プログラム			PMC		
	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者
5月							23	20	13
6月	28	26	12	28	27	24			
7月							17	15	10
9月							48	44	32
10月	45	42	19	34	32	22			
11月							51	45	30
1月							64	61	45
2月	85	76	39	47	43	25			
3月							94	88	61
合計	158	144	70	109	102	71	297	273	191
累計	11,157	10,373	5,056	973	912	594	4,379	4,109	2,892

* 合計：年度合計人数、累計：試験初回実施以降の総累計人数

表 5. P2M 講習会実施状況 (受講者数推移) (名)

開催月	PMC 講習会	PMS 講習会	PMS プログラム講習会
5～6月	10	2	1
7～8月	18		
9～10月	16		
11～12月	10	1	1
1～2月	3	1	2
3～4月	19		
計	76	4	4

表 6. PM 一般研修 (名)

区分	開催日	テーマ等	参加者
PM 研究 ・研修部会セミナー	4.21	MoP 概要紹介	12
	7.21	プロジェクトマネジメント標準比較	11
	10.6	PMBOK®ガイド 第6版変更点解説	15
	10.20	P3O 概要紹介	9
	10.30	PMBOK®ガイド 第6版変更点解説	13
	11.17	PMBOK®ガイド 第6版変更点解説	15
	12.15	PMBOK®ガイド 第6版変更点解説	13
	1.19	プロジェクトマネジメント標準比較	13
PMP®試験対応講座	5.27～6.17	4日間コース	9
	6.24	1日演習コース	9
	9.30～10.21	4日間コース	10
	10.28	1日演習コース	10
	1.27～2.17	4日間コース	6
	2.24	1日演習コース	6
PMBOK®ガイド基礎講座	11.23	基礎レベル・実践の視点で概観	7
PMAJ 特別講座	12.10	プログラムマネジメント標準の紹介	20
	12.14	「アジャイル開発への道案内」出版記念	24
	2.22	「アジャイル開発への道案内」出版記念	23

表 7. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
221回	4.28	向後忠明	時代が求める変化に対応できるプロジェクトマネジメント	30
222回	5.26	佐藤裕也	将来起点で事業を考える戦略的ロードマッピング	24
223回	6.23	藤田勝利	「イノベーション」とは何か	30
224回	7.28	佐藤義男	なぜ、プロジェクトマネジメントに人間系スキルが必要なのか	26
225回	8.25	大谷紀子	人工知能の特徴と可能性	32
226回	9.22	田村芳隆	二度の南極越冬体験者が語る雪と氷の世界	32
227回	10.27	生出さやか	ビジネスパーソンにこそヨガの習慣を	36
228回	11.24	佐藤義男	PMI® 北米大会 2017 参加報告	25
229回	12.15	丹野隆志	セキュリティマネジメント実践により組織の活性化を図る！	30
230回	1.26	倉地重夫	プロジェクトのKFSはコミュニケーション	15
231回	2.23	中谷英雄	なぜ、「デザイン思考」が注目されているのか？	35
232回	3.23	枝窪肇	"Made in Japan"はなぜ崩れたのか？	27

表 8. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
134回	4.14	高島徹	戦国武将に学ぶ決断力	23
135回	7.14	小原由紀夫	実践！なぜなぜ5回（階）	65
136回	9.8	中川雅章	組織変革の最新手法チームコーチング	45
137回	10.13	佐伯 円	事実起点の共創イノベーション～行動観察の概要と自治体関連事例～	29
138回	11.18	川辺友之	ナニワのダ・ヴィンチの夢	32
139回	2.9	田村芳隆	共創型強いチームに欠かせないインタラクション・コミュニケーション	26
140回	3.9	吉田 武史	学校での社会基礎力を高めるマネジメント教育への取り組み	31

表 9. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
58号	4月	新春 PM セミナー2017／投稿レポート 4月
59号	8月	関西 P2M セミナー2017／投稿レポート／PMR 資格試験合格記
60号	11月	PM シンポジウム 2018